



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

9月号—No.316

2021.8.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【紫檀色(したんいろ)】磨き込まれた紫檀の銘木のような深い赤みを帯びた紫色。

紫檀はローズウッドの和名。遣唐使によって日本に伝来した熱帯産の銘木は「唐木(からき、とうぼく)」と呼ばれ、中でも紫檀、黒檀、鉄刀木(たがやさん)は堅くて緻密で耐久性に優れていることから「唐木三大銘木」として高級家具などに用いられ、珍重された。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和4・5年度「公共ホール邦楽活性化事業」登録演奏家決定

財団からのお知らせ..... 4

全国市町村国際文化研修所(JIAM)「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」の募集開始 / 令和3年度「リージョナルシアター事業」スタート / 新型コロナウイルス感染症に係る支援策の情報募集について / 「特別寄稿ビューポイント view point」No.5掲載について / (一財)自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」募集開始について

今月の情報..... 6

地域通信 / 特集 アートプロジェクト / アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

滋賀県米原市 滋賀県立文化産業交流会館 長栄座伝承会「むすひ」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4183 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

●令和4・5年度「公共ホール邦楽活性化事業」

オーディションを経て3名の登録演奏家が決定

令和4・5年度 公共ホール邦楽 活性化事業 登録演奏家決定

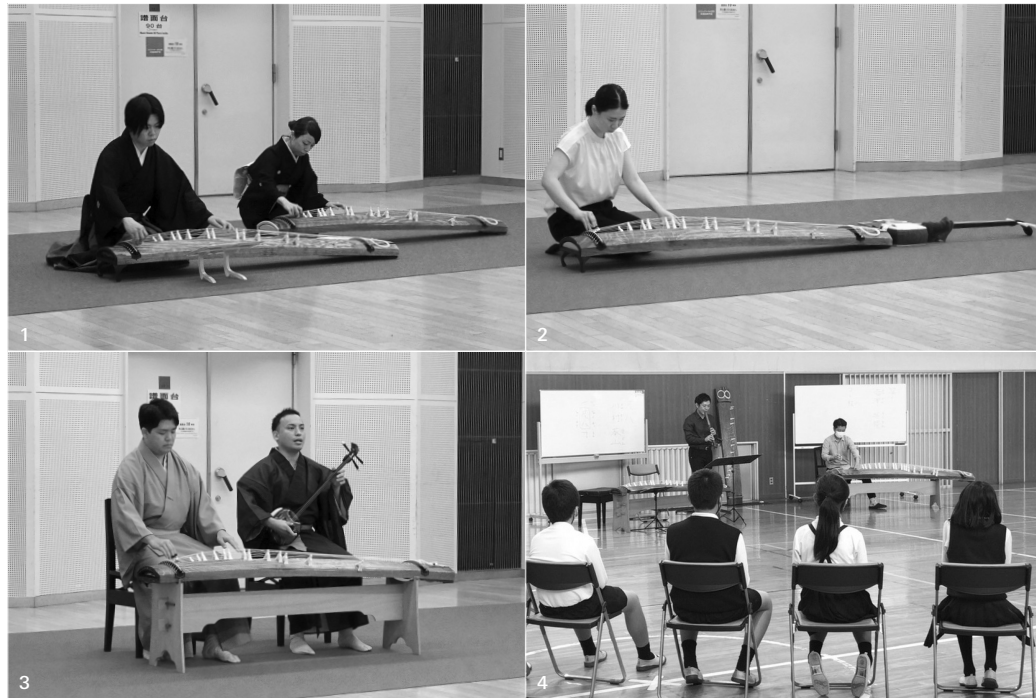
写真1～3:第2次選考の様子

1:川田健太さん(左)

2:藤重奈那子さん

3:棚原健太さん(右)

4:小学校での邦楽アウトリーチの様子(令和2年度公共ホール邦楽活性化モデル事業/高松市立牟礼南小学校/演奏家:吉澤延隆(箏)、川村葵山(尺八))



●公共ホール邦楽活性化事業

市町村等の公立ホールに、邦楽演奏家とコンサートの企画制作経験が豊富なコーディネーターを派遣し、地方公共団体等と共催でホールプログラムと地域交流プログラムを実施する事業。令和4(2022)年度から2カ年の登録演奏家制度を採用。

◎審査員

児玉真(一般財団法人地域創造プロデューサー)

伊藤由貴子(公益財団法人神奈川芸術文化財団音楽事業部長、神奈川県民ホール副館長)

谷垣内和子(公益社団法人日本芸能実演家団体協議会実演芸術振興部企画室長)

米澤浩(邦楽演奏家、NPO法人日本音楽集団副代表)

田中隆文(有限会社邦楽ジャーナル代表取締役)

●公共ホール邦楽活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 永田・森永

Tel. 03-5573-4064

hougaku@jafra.or.jp

公共ホール邦楽活性化事業では、来年度から2カ年の登録演奏家制度がスタートします。7月6日、令和4・5年度の事業で派遣する登録演奏家を選考するオーディションの第2次選考が東京芸術劇場リハーサル室で行われました。

登録演奏家は満20歳以上40歳以下の邦楽器演奏家を対象に全国から公募され、第1次選考を通過した箏、三味線、尺八、太鼓など11名(助演者各1名)が、ライブ演奏とトークによるプレゼンテーション、質疑応答に臨みました。その結果、川田健太さん(箏、三絃)、藤重奈那子さん(箏、地歌三絃、十七絃)、棚原健太さん(歌三線)の3名が登録演奏家に決定しました。

今回は、地域創造として初めて取り組む邦楽演奏家のオーディションの模様と公共ホール邦楽活性化事業について紹介します。

●コミュニケーション力が求められる登録演奏家

第2次選考は、新型コロナウイルス感染症対策のため、十分な距離の確保や各演奏家の

入れ替えの間に換気を行ったほか、プレゼンテーション中以外はマスク着用という緊張した雰囲気の中で行われました。邦楽の専門家や事業プロデューサーから成る審査員5名は、プロフィール、演奏曲目、子どもたちなどに対する普及事業の経験、当事業で実現したいと考えている目標、演奏可能プログラムを記入した参加申込書を参照しながら、審査を行いました。

今回の登録演奏家で最年少となる川田健太さん(2001年生まれ)は若干20歳で、洗足学園音楽大学現代邦楽コースに在学中の学生演奏家です。7歳から山田流箏曲を学び、ポップスやジャズなども演奏するという川田さんは、他の演奏家が複数曲でプレゼンテーションする中、あえて宮城道雄『水の変態』1曲で臨みました。「西洋楽器に比べて邦楽器は倍音が豊か、その響きで音楽をつくることで日本でしか感じられない体験ができる。そういう邦楽器の魅力をお若男女に伝えたいと思っています。そのために公立ホールを有効に活用できればと考え、地域音楽コーディネーターの資格も取りました」と言い、学生らしい問題意識を

アピールしました。

藤重奈那子さん(1996年生まれ)も東京藝術大学大学院に所属する学士演奏家です。10歳から生田流箏曲を学び、各種コンクールでの受賞歴もある実力派です。ユニークな普及事業にも取り組み、「あのおとのなまおと音楽会」(邦楽曲のCDを小学校に配布し、3週間程度BGMとして活用後、実際にアウトリーチで生演奏)、ティッシュ箱で箏をつくって演奏する創作ワークショップ、古民家カフェでの幅広いジャンルの演奏などを意欲的に展開してきました。「アートプロデュースを学んでいる学生たちと一緒に活動してきました。そもそも邦楽は生活の中にあつた音楽だと思うので、それを再確認してもらえるような演奏をしたいし、普及事業では子どもたちの表情を見て、声を拾うことを大切にしたい」と話していました。

そして、新風となったのが、琉球古典音楽の歌三線を継承する棚原健太さん(1993年生まれ)です。棚原さんは公益財団法人沖縄県文化振興会の職員であり、沖縄伝統組踊「子

の会(しーのかい)」(国立劇場おきなわ組踊研修修了生による会)に所属し、伝統芸能公演や小中高校へのアウトリーチを行っています。歌いながら三線を弾く歌三線は、「八八八六」調の歌詞、琉球音階(5音階)という特徴をもち、沖縄の人々の日常に欠かせないものです。「八八八六調で歌詞をつくってもらい、言葉が音楽になるのを体験してもらおうワークショップなど、沖縄の音楽をわかりやすく印象に残るように伝えたいと思っています」と話していました。

3名の登録演奏家は、今後、公共ホール邦楽活性化事業についての具体的な事例や地域コミュニティとの関わり方などのガイダンスを受け、来年5月に実施団体を対象にしたプレゼンテーション、地域交流プログラムづくりのための研修を経て、来年9月以降に地域での事業を実施する予定になっています。

現在、令和4年度公共ホール邦楽活性化事業の実施団体を募集中です(9月24日締切)。ご応募をお待ちしております。

令和4・5年度公共ホール邦楽活性化事業 登録演奏家プロフィール



●川田 健太(かわだ けんた)[箏、三絃]

群馬県前橋市出身。7歳より山田流箏曲を、9歳より三味線を習いはじめる。古典作品はもちろん、山田流独自の力強いタッチを活かし、ポップスやジャズ、演歌などをフルートやピアノ、ヴォーカルなどとともにジャンルを超えて共演するマルチなアーティストとして活躍している。洗足学園音楽大学現代邦楽コース在学中。第33回国民文化祭・おおいた2018出演。地域音楽コーディネーター(音楽文化創造)。



●藤重 奈那子(ふじしげ ななこ)[箏、地歌三絃、十七絃]

大阪府和泉市出身。10歳より箏、12歳より地歌三絃を深海さとみに師事。東京藝術大学音楽部邦楽科生田流箏曲専攻を卒業。卒業時に皇居内桃華楽堂にて御前演奏を務める。現在、同大学の音楽研究科修士課程に在籍中。第18回全国小・中学生箏曲コンクール【小学生の部】銀賞、第2回K邦楽コンクール【現代部門】特別優秀賞(第1位)など多数受賞。宮城社教師。箏曲宮城会、深海邦楽会各会員。



●棚原 健太(たなはら けんた)[歌三線]

沖縄県浦添市出身。琉球古典音楽野村流保存会教師。比嘉康春に師事。沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻琉球古典音楽コース卒業、同大学院琉球古典音楽専修修了。国立劇場おきなわ第四期組踊研修を修了。沖縄タイムス伝統芸能選考会三線の部グランプリを受賞。公益財団法人沖縄県文化振興会 文化専門員勤務(H31年度～R3年度)、国立劇場おきなわ主催公演ほか、沖縄県内外での琉球芸能公演等に出演。

財団からのお知らせ

●全国市町村国際文化研修所(JIAM)「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」の募集開始

全国の市区町村長・副市区町村長および部長級職員を対象に、全国市町村国際文化研修所(JIAM)との共催により「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」を実施します。この事業は、自治体の長または幹部職員が知っておくべき地域づくりにおける文化・芸術の役割等を学んでいただくことを目的としているものです。セミナーは2日間にわたって行われ、1日目に、劇作家・演出家の佐藤信さんによる「COVID-19以降の公共施設『広場』と『空地』」と題した、コロナ禍で見直される公共ホールの役割や、芸術・文化の必要性などについての講演を予定しています。また、地域での活動経験が豊富なおんかつ支援登録アーティストQuatuor B(サクソフォン四重奏)によるミニコンサートを行い、感染症対策を取りながらの模擬アウトリーチを体

験していただきます。

研修の詳細および参加方法は、JIAMホームページ(<https://www.jiam.jp>)をご確認ください。

[研修日程] 2021年10月28日(木)、29日(金)
[会場] 全国市町村国際文化研修所(JIAM)
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎2-13-1
[申込締切] 9月15日(水)
[主催・問い合わせ](公財)全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所(JIAM) 教務部
Tel. 077-578-5932



昨年のミニコンサート(ソプラノ: 廣田美穂、ピアノ: 浅野菜生子)

●令和3年度「リージョナルシアター事業」がスタート

演出家等を公共ホール等に派遣し、ホール職員等と共にアウトリーチやワークショップを企画・実施するリージョナルシアター事業。この事業では、演劇の幅広い可能性について、ホール職員等の理解を深め、演劇の手法を用いて地域活性化の試みを後押しすることを目的としています。今年度は、7団体が参加し、まちの規模もミッションもさまざまななかで、担当者が派遣アーティストと対話を重ねながら企画した事業が、順次スタートしています。

大空町(派遣アーティスト: 福田修志)では、世代間交流をテーマに、親子を対象として、お仕事交換のワークショップを実施。大人たちは職場でやっていることを、子どもたちは学校でやっていることをそれぞれ実演し、参加者皆で真似してみることで、それぞれの生活からお互いを理解するきっかけをつくりました。参加者からは、「子どもに普段仕事の内容を細かく話す機会がなかったが、これからは話してみたい」との声がありました。また、自治会女性部を対象に、大空町流の昼ドラ川柳を考えるワークショップを実施。大空町の新しい魅力の発見を求め、参加者同士で、大空町の風景を取り入れた句のカードをつくり合い、それを組み合わせて川柳をつくりました。昼ドラ川柳、サスペンス川柳等、ユーモアと想像力にあふれた川柳が次々と生まれ、

世代を超えて盛り上がる様子が印象的でした。

大野市(派遣アーティスト: 多田淳之介)では、高校でのアウトリーチを実施。『走れメロス』のワンシーンの演出を考え、発表しました。会場にある道具を活用したり、セリフを追加したりと、同じシーンの演出ながら、グループによって、登場人物、小道具、効果、セリフのとらえ方等はさまざま。同じ言葉を使っている、言葉の裏側にあるものは大きく異なるということを考えさせられ、作品を創る過程の楽しさを知ることのできる体験となりました。

他地域でも、地域資源を活用した取り組みなどが実施されますので、興味のある方はぜひご視察ください。



福井県立大野高等学校(福井県大野市)でのアウトリーチの様子

●令和3年度リージョナルシアター事業(参加団体/派遣アーティスト)

- 北海道大空町(大空町教育委員会/福田修志)
- 大阪府枚方市(枚方市/ごまのはえ)
- 福岡県久留米市(久留米市/多田淳之介)
- 秋田県(秋田県/田上豊)
- 福井県大野市(大野市/多田淳之介)
- 静岡県掛川市(公益財団法人掛川市文化財団/有門正太郎)
- 熊本県荒尾市(中央設備 ステージ・ラボ共同体/ごまのはえ)

○アドバイザー

- 内藤裕敬(南河内万歳一座座長、劇作家・演出家)
- 岩崎正裕(劇団太陽族代表、劇作家・演出家)

○派遣アーティスト情報

https://www.jafra.or.jp/system/artists/index?genre=301®istered_year=2021

○問い合わせ

芸術環境部 粟林・田中

Tel. 03-5573-4124

regional@jafra.or.jp

▼一財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●新型コロナウイルス感染症に係る支援策の情報募集について

地域創造では、新型コロナウイルス感染症の影響が文化・芸術分野にも広がる中、各地域の文化・芸術および地域振興をより一層支援する観点から、2020年7月に「新型コロナウイルス感染症関連情報ページ」を開設し、地方公共団体における地域の文化・芸術活動に対する支援策情報の収集・発信を行っています。文化・芸術分野の支援対象者に活用していただくとともに、今後の施策検討にご活用いただける情報の収集・発信を継続してまいります。

各地方公共団体の皆様におかれましては、今年度に整備された支援策等の情報提供にご協力くださいますようお願いいたします。

対象となる情報

地方公共団体等(※)による新型コロナウイルス感染症に係る文化・芸術分野への支援策
※公益法人等への委託・補助等により実施している支援策も含まれます。

情報提供方法

当財団ホームページより情報提供フォームにアクセスいただき、ご入力ください。

<https://www.jafra.or.jp/event-request/support2021/>

※提供いただいた情報は、実施期間にかかわらず情報発信を行います。

※原則、毎月第2・4金曜日に情報発信予定です(前日までに提供いただいた情報が対象)。

新型コロナウイルス感染症関連情報ページ

<https://www.jafra.or.jp/docs/6836.html>



●「特別寄稿 ビューポイント view point」No.5掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。

新たに「骨董通り法律事務所 For the Arts」代表パートナーの福井健策氏(弁護士/ニューヨ

ク州弁護士)にご寄稿いただきました(7月6日更新)。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/column05.html>

◎問い合わせ

芸術環境部 吉川

Tel. 03-5573-4068



●(一財)自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」の募集開始について

(一財)自治総合センターでは、宝くじの社会貢献広報事業であるコミュニティ助成事業の一環として、公立文化施設の利活用の推進や企画制作能力の向上等を図るため、市(区)町村(ただし政令指定都市を除く。)に対する「地域の芸術環境づくり助成事業」を実施しています。

このたび令和4(2022)年度事業の募集が開始されましたのでお知らせします。締切は各

都道府県の文化担当課へお問い合わせください。

[問い合わせ]一般財団法人自治総合センター

担当:小林 Tel. 03-3504-0841

※事業の詳細につきましては、(一財)自治総合センターのウェブサイトをご覧ください。

<https://www.jichi-sogo.jp/>

※都道府県から(一財)自治総合センターへの締切は11月30日(火)必着。

地域通信

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailをお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 藤原・梅村

●2021年11月号情報締切

9月24日(金)

●2021年11月号掲載対象情報

2021年11月～22年2月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

札幌市教育文化会館(札幌市芸術文化財団)
〒060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目
Tel. 011-271-5822 櫛引彩乃
<https://www.kyobun.org/>

教文伝統芸能シリーズ

「能楽なう」

2年ぶりとなる、次世代への継承を目的に日本の伝統芸能を紹介する「教文伝統芸能シリーズ」の能楽公演。能楽シテ方には五つの流派があり、同じ演目でも台詞や型などに流派ごとの細かな違いがある。今回はその中から、「宝生流」「観世流」を取り上げる。「宝生流 巻絹 五段 神楽」「観世流 葵上 梓之出 空之祈」のどちらの演目も、両派の特徴である繊細かつ優美な芸を存分に楽しむことができる公演となっている。

[日程]9月8日

[会場]札幌市教育文化会館

●北海道鹿追町

神田日勝記念美術館
〒081-0292 河東郡鹿追町東町3-2
Tel. 0156-66-1555 杉本圭吾
<http://kandanissho.com/>

画家たちの座標

アトリエは語る

北海道鹿追町ゆかりの洋画家・神田日勝(1937～70)の中期の作品群「画室」シリーズに注目した展覧会。日勝と同じく、画室・アトリエ・絵画制作現場を描いた紺野修司や松樹路人など北海道ゆかりの画家たちの作品も併せて展示することで、画家にとって「アトリエを描く」とは何かを探っていくとともに、日勝の「画室」の独自性を浮き彫りにする。

[日程]7月7日～9月12日

[会場]神田日勝記念美術館

●青森県青森市

青森県立美術館
〒038-0021 青森市安田字近野185
Tel. 017-783-5243 乳井千春
<http://www.aomori-museum.jp/ja/>

アレコホール定期演奏会2021 「今、心の歌を。」～一つの声と 二つのピアノで紡ぐ～

20世紀を代表する画家マルク・シャガールによるバレエ『アレコ』舞台背景画全4作品の揃うアレコホールでお届けする定期演奏会。今年度は、バリトン歌手と二人のピアニストによる、美術館初の歌をメインとしたコンサートを開催する。

[日程]8月28日

[会場]青森県立美術館

●仙台市

仙台市市民文化事業団
〒984-0015 仙台市若林区卸町2-12-9
Tel. 022-782-7510 大久保はるか
<https://www.gekito.jp/>

能-BOX開館10周年記念公演 創作舞『雨ニモマケズ』

せんだい演劇工房10-BOXの別館「能-BOX」が開館10周年を迎えるのを記念して、テノール歌手、箏、チェロ、笛、和太鼓など選りすぐりの演奏家たちによるスペシャルコンサートと、創作舞『雨ニモマケズ』を披露する。監督は観世流能楽師の津村禮次郎、演出・振付は森山開次。劇場公演のほか、オンライン配信も行う。

[日程]9月11日、12日

[会場]能-BOX(せんだい演劇工房10-BOX別館)



『雨ニモマケズ』
撮影:諏訪間千夏

●山形県川西町

川西町フレンドリープラザ
〒999-0121 東置賜郡川西町大字上小松1037-1
Tel. 0238-46-3311 栗田政弘
<https://www.kawanishi-fplaza.com/>

川西町役場新庁舎開庁記念コンサート 山形交響楽団と松川儒フレンドリークラシック

ピアニスト・松川儒と川西町の長年にわたる音楽交流から生まれた記念コンサート。松川は毎年国内外の多くの演奏家と共演し、町内外のクラシックファンを魅了している。また20年以上にわたり町内でクラシック音楽の夏期講習会(フレンドリークリニック)を主宰し、若い音楽家を育成。今回は共に長年講師を務めている3人の声楽家と山形交響楽団と共演し、川西町の節目を飾る役場新庁舎の開庁を祝う。

[日程]10月3日

[会場]川西町フレンドリープラザ



フレンドリークリニックの様子

関東

●群馬県高崎市

群馬県立近代美術館
〒370-1293 高崎市綿貫町992-1
Tel. 027-346-5560 太田佳鈴
<http://mmag.pref.gunma.jp/>

関東南画のゆくえ

江戸と上毛を彩る画人たち

18世紀、文人画などの中国絵画に影響を受けて江戸から広まった関東南画を軸に、谷文晁ら江戸を中心に活躍した画人たちと、金井烏洲ら上毛(現在の群馬県)の画人たちの作品を紹介する。関東南画を一地域から見つけ、その展開と人々の繋がりを

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

をたどりながら、作品のもつ多彩な魅力に迫る。「華山と椿山、地方の書画文化とのかかわり」(10月30日)などのレクチャーも実施。

[日程] 9月18日～11月7日
[会場] 群馬県立近代美術館



谷文晁(関田川両岸図)(群馬県立近代美術館蔵)

● 千葉市

千葉市美術館
〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
Tel. 043-221-2311 松岡まり江
<https://www.cma-net.jp/>

江戸絵画と笑おう

明治の戯画も大活躍!

「江戸・明治の絵画」という難しいイメージを抱きがちな作品の中から、「笑い」をキーワードとして、現代人にも自然に楽しめる親しみやすい作品を集めたコレクション展。動物画のかわいさに「うふふ」、ウイットに富んだ戯画に「くすり」とさまざまな笑いと魅力にあふれた作品を紹介する。また、浮き人形づくりのワークショップをオンラインで開催し、江戸時代の子どもの遊びを今に伝える。

[日程] 7月13日～9月20日
[会場] 千葉市美術館

● 東京都調布市

調布市文化・コミュニティ振興財団
〒182-0002 調布市仙川町1-21-5
Tel. 03-3300-0611 水野陽子
<https://www.chofu-culture-community.org/>

市民参加演劇「その境を超えて～Beyond the border～」

「境界を超える」というテーマの

もと、演劇公演・身体パフォーマンス・講座を実施。コロナ禍の時世を踏まえて、小グループで安心して発表できる場を設ける。演劇公演は『ロミオとジュリエット』を調布版として新たに脚色、本格的な創作体験ができるコース、公募で集めた市民のエピソードを元にオリジナルの物語をつくるコースの2種類。「身体表現ワークショップ」では、ダンスグループ「新人Hソケリッサ!」を主宰するアオキ裕キを講師に迎え、最後に市内屋外でパフォーマンスを行う。

[日程] 9月10日～10月17日
[会場] 調布市せんがわ劇場

● 東京都三鷹市

三鷹市スポーツと文化財団
〒181-0012 三鷹市上連雀6-12-14
Tel. 0422-47-5122 森元隆樹
<https://mitaka-sportsandculture.or.jp/geibun/star/>

MITAKA "Next" Selection 22nd

若手を中心に、脚本・演出・構成力に優れ、今後の飛躍が期待される団体を集めて上演の場を作るMITAKA "Next" Selection。上演する劇団には自由に創作ができる場と、長い上演期間が与えられ、これまでの上演団体からも演劇賞受賞者が多く輩出されている。22回目となる今回は劇団普通による『病室』、桃尻犬による『ルシオラ、来る塩田』が上演され、個性を活かした作風が期待される。

[日程] 劇団普通: 7月30日～8月8日/桃尻犬: 9月3日～12日
[会場] 三鷹市芸術文化センター

● 横浜市

横浜みなとみらいホール
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-3-6(休館中)
Tel. 045-682-2020 白川美帆
<https://mmh.yafjp.org/>

横浜みなとみらいホール出張公演 横浜18区コンサート 第1期

ホールの大規模改修工事期間中に、横浜市全18区の各文化拠点を巡り、コンサートを展開する横浜みなとみらいホールの出張オリジナル企画。出演は、横浜文化賞文化・芸術奨励賞の受賞者など、横浜から世界へ羽ばたくトップソリストと、館に縁のあるオーケストラメンバーの豪華共演で開催する。全18区すべてに文化拠点をもち横浜ならではの企画。

[日程] 第1期: 9月～2022年3月
[会場] 横浜市内各区のホールや公会堂等

● 神奈川県平塚市

平塚市美術館
〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3
Tel. 0463-35-2111 江口恒明
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/art-muse/index.html>

開館30周年記念 studio COOCAのポップパラダイス2021 —これがとってもとくいです

平塚市の障害福祉サービス事業所studio COOCAは、さまざまなハンディキャップをもった人が得意な事で仕事をするを旨とし、アートをテーマとして活動している。本展はstudio COOCA所属作家による絵画とインスタレーションを中心に紹介。独特の世界観から生み出される明るく突き抜けた作品から、障害やアートの本質を問いかける。

[日程] 7月10日～9月12日
[会場] 平塚市美術館

北陸・中部

● 新潟市

新潟市西蒲区産業観光課
〒953-8666 新潟市西蒲区巻甲2690-1
Tel. 0256-72-8417 毛嶋直喜

<https://www.city.niigata.lg.jp/nishikan/about/kankou/wara-art/>

わらアートまつり 2021

「稲わら」を活用したさまざまなアート作品を制作・展示し、新潟市の魅力を発信するとともに交流人口の拡大と市民の一体感の醸成を図るイベント。東京の武蔵野美術大学の学生が「見た人に活力を与える縁起物」をテーマにデザインし、地元の学生や地域のサポーターが現地で3体のご利益のあるわらアート作品を制作し展示する。

[日程] 8月29日～10月31日
[会場] 上堰公園

● 富山県高岡市

高岡市美術館
〒933-0056 高岡市中川1-1-30
Tel. 0766-20-1177 瀬尾千秋
<https://www.e-tam.info/index.html>

高岡市美術館創立70周年記念 70年のキセキ 人生に寄り添うコレクション

創立70周年にあたり、年間を通じて「日常や人生のさまざまな場面で常にそばにある」というこれからの美術館像をコンセプトに、春夏秋冬を通して大規模にコレクションを紹介。夏は、「あなた」の人生のさまざまな場面に、寄り添ってくれる作品がある—そんな観る人の一生の物語をイメージして展覧会を構成。美術館のこれからの可能性を、11のテーマで紹介する。

[日程] 7月16日～8月29日
[会場] 高岡市美術館



小坂勝人(夏)(1940年/高岡市美術館蔵)

●長野県軽井沢町

軽井沢町教育委員会

〒389-0115 北佐久郡軽井沢町大字追分1155-8

Tel. 0267-45-1466 伊藤京子

<https://www.town.karuizawa.lg.jp/www/index.html>

軽井沢を愛したフランス人浮世絵師 ポール・ジャクレー全木版画展

軽井沢にゆかりの深いフランス人画家ポール・ジャクレーの没後60年を期して、全木版画162点を2期に分けて紹介する特別企画展。写真・書簡・遺愛品などの資料により、軽井沢での生活や制作の様子も鑑賞でき、ジャクレーの芸術世界を堪能できる。また、9月には多色摺木版画体験、10月には美術史家の猿渡紀代子を講師に招き教養講座も行う。

[日程]前期:8月1日~9月12日、後期:9月15日~10月31日

[会場]軽井沢町追分宿郷土館

●岐阜県岐阜市

サラマンカホール

〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-53

Tel. 058-277-1113 竹内香織

<https://salamanca.gifu-fureai.jp/>

ぎふ弦楽器貸与プロジェクト STROANコンサート

ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの計40挺の弦楽器寄贈を受けたサラマンカホールは、弦楽器奏者の支援育成を目的に無償貸し出しをスタート。貸し出し中の中学生~60歳代までの38人が全国各地から集まり、前橋汀子やF・アゴスティニ、原田禎夫ら著名アーティストと弦楽アンサンブルで共演。リハーサルの模様から一般公開され、後半はソロで、1年間楽器と向き合い仕上げた音色を披露する。

[日程]9月26日

[会場]サラマンカホール

●愛知県豊川市

豊川市市民部文化振興課

〒442-0841 豊川市代田町1-20-4

Tel. 0533-84-8411 松井将太

<https://www.city.toyokawa.lg.jp/>

市民による構成劇『ハイネさん 2021~豊川海軍工廠をめぐる物語~』

太平洋戦争末期の豊川海軍工廠への空襲をテーマにした住田真理子の小説『ハイネさん』(第21回日本自費出版文化賞小説部門賞受賞)を原作とした演劇作品。今回は2019年に映画監督で舞台演出家の深作健太氏の構成・演出で朗読劇として上演して好評を博した作品に、ダンス、映像などを加え、公募により参加した市民と共に新たに創作し上演する。

[日程]9月11日、12日

[会場]フロイデンホール(豊川市小坂井文化会館)

●愛知県幸田町

幸田町文化振興協会

〒444-0103 額田郡幸田町大字大草字丸山60

Tel. 0564-63-1111 金澤大介

<https://www.happiness.kota.aichi.jp/hall/index.htm>

幸田町 第13回 若い芽のコンサート

幸田町出身・在住・在勤および近隣の30歳以下で、各種音楽の分野を志している人を対象に募集を行い、開催する2年に1度のコンサート。ゲストは、第2回出演者でもあり、現在プロトランペット奏者として活躍中の田中誠剛。アーティストには、コンサートに出演することで、この地域に同世代の志をもった人たちがいる事を感じ取ってもらうとともに、アーティスト同士の繋がりを広げてもらう。

[日程]8月29日

[会場]幸田町民会館

近畿

●三重県津市

津市久居アルスプラザ

〒514-1136 津市久居東鷹跡町246

Tel. 059-253-4161 上田順子

<https://www.tsuhisai-ars.jp/>

鈴木翼&福田翔 あそびうたワンダーランド

子ども向け、親子向けのあそび歌作家として活動しながら、全国の保育園、幼稚園、児童館等でファミリーコンサートや保育者向け講習会等を行う鈴木翼、福田翔によるコンサート。0~2歳児は大人の膝上であれば無料で入場することができ、大人と子どもが1名ずつ入場できるセット券の販売もある。手あそび、うたあそび、ダンス、体操等の要素を取り入れ、親子で楽しめるコンサートになっている。

[日程]9月20日

[会場]津市久居アルスプラザ

●大阪市

大阪クラシック実行委員会

〒553-0005 大阪市福島区野田1-1-86 大阪市中央卸売市場本場業務管理棟8F

Tel. 06-6469-5176 新井勝也

<https://osaka-classic.jp/>

大阪クラシック2021

2006年から毎年開催している初秋の大阪を彩るクラシック音楽の祭典。本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度と同様に街中のオフィスビルのロビーやカフェ、ホテルなどを会場とした無料公演は開催せず、ソーシャルディスタンスを確保



「大阪クラシック2020」会場：大阪市中央公会堂大集會室 写真：©飯島隆

保しての有料公演や、ステイホームでも楽しめる動画配信を行う。普段クラシック音楽に触れる機会の少ない人でも気軽に楽しめる。

[日程]9月12日~18日

[会場]大阪市中央公会堂ほか

●神戸市

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 神戸市灘区原田通3-8-30

Tel. 078-855-5607 早水千尋

<https://ytmooca.jp/>

横尾忠則の恐怖の館

我々は未知のものに対してしばしば恐怖を抱く。それは好奇心と表裏一体であり、怖いけど見たい、といったアンビバレントな感情を誘発する展覧会。幼少期の体験が色濃く反映された横尾忠則の多彩な作品を通じて、「芸術」と「恐怖」との関係性について考察する。会期のうち4日間は、担当学芸員が本展の見どころをわかりやすく解説するキュレーターズ・トークを実施。

[日程]9月18日~2022年2月27日

[会場]横尾忠則現代美術館

中国・四国

●鳥根県益田市

鳥根県立いわみ芸術劇場

〒698-0022 益田市有明町5-15

Tel. 0856-31-1861 福岡一

<http://www.grandtoit.jp/theater/>

しまね演劇フェスティバル2021

「第3回しまね演劇コンクール」

鳥根で演劇活動を行う団体の発表の場をつくり、団体同士の交流を図る演劇フェスティバル。審査で選ばれた5団体が作品を上演し、公募した一般審査員100人の投票による「しまね演劇大賞」や、俳優賞、専門審査員賞等を選出する。出場団体の過去作品の映像を上演する「しまね演劇シアター」や、上演作品のライブ配信も行われ、県内の特

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

色ある演劇を一度に見ることが
できる。

[日程] 9月19日

[会場] 島根県いわみ芸術劇場
グラントワ



石見国くにびき18座(浜田市)『この道をつ
ないで』(2018年参加作品)

●岡山県勝央町

勝央町教育委員会

〒709-4316 勝田郡勝央町勝
間田200-1

Tel. 0868-38-1753 竹内祐三

<http://www.town.shoo.lg.jp/>

JAZZ FOR THE YOUNG GENERATION

「Jazzの敷居を低く」をコンセプ
トに2013年4月から活動を開始
し、ニコニコ動画やYouTubeで
人気のジャズビッグバンド「Low
land Jazz」による演奏会。ボーカ
ロイドやアニソンの他にもJ-P
O P、洋楽、ジャズスタンダードなど
幅広いジャンルをLowland Jazz
オリジナルアレンジで演奏する。
また、勝央中学校吹奏楽部とも
共演する。

[日程] 9月19日

[会場] 勝央文化ホール

●広島県福山市

ふくやま芸術文化財団

〒720-0802 福山市松浜町2-
1-10

Tel. 084-928-1803 今木瑛之

<https://www.city.fukuyama.hiroshimajp/site/r-rose/>

Up & Coming Artists Series - Vol. 2 奥井紫麻 ピアノ・リサイ タル

今後、世界的な活躍が期待され
る新進演奏家にスポットを当て
たシリーズとして今年度からス

タートしたUp & Coming Artists
Series。若きアーティストの“今”
をお届けする。国際コンクールで
受賞を重ねるなど、世界で活躍
する2004年生まれの実才ピアニ
スト・奥井紫麻。今、最も注目さ
れている彼女のリサイタルを聴け
る貴重な機会。

[日程] 9月18日

[会場] リーデンローズ(ふくやま
芸術文化ホール)

●愛媛県松山市

愛媛県美術館

〒790-0007 松山市堀之内

Tel. 089-932-0010 五味俊晶

<https://www.ehime-art.jp/>

令和3年度 コレクション展Ⅲ かわいい展

愛媛県美術館の収蔵作品の中
から、「かわいい」をテーマに作
品を紹介するコレクション展。
複雑な意味合いと歴史が刻ま
れている「かわいい」という単語
をキーワードに、さまざまな作
品を展示。十二支を主人公にした
江戸時代の絵巻から動物の掛
軸に至るまで、どういった部分
が「かわいい」のかを考え、新しい
「かわいい」のカタチを探る。

[日程] 8月8日～9月20日

[会場] 愛媛県美術館

九州・沖縄

●熊本市

熊本県立美術館

〒860-0008 熊本市中央区二
の丸2番

Tel. 096-352-2111 宮川聖子

<https://www.pref.kumamoto.jp/site/museum/>

絢爛豪華! おかやま・林原美 術館展 洛中洛外図屏風と大 名文化

岡山市の林原美術館は、日本を
はじめとする東アジア地域の名
品と、池田家の大名道具を中心
とするコレクションを所蔵してい
る。本展では、そのコレクション

の中から選りすぐりのおよそ100
点を展示。展示作品の中には国
宝・国指定重要文化財などが含
まれ、「絢爛豪華」なラインナップ
となっており、林原美術館の名
品を一堂に、かつ“ぜいたく”に
紹介する西日本初の試み。

[日程] 7月16日～9月5日

[会場] 熊本県立美術館 本館

●熊本市

熊本市現代美術館

〒860-0845 熊本市中央区上
通町2-3

Tel. 096-278-7500 富澤治子

<https://www.camk.jp/>

こわいな! 恐怖の美術館展

熊本地震5年目を記念し、恐怖
や不安の時間を経て新たな表
現を生み出した近現代美術家、
文学者、演劇集団たち5名と1
グループの作品を紹介する展覧
会。コロナ禍や地震をテーマに
した新作も多数発表される。関
連企画として、アーティストト
ーク、ナイトツアーや演劇おけ
屋敷、朗読ライブなども開催さ
れる。

[日程] 9月25日～12月5日

[会場] 熊本市現代美術館

●大分県日田市

日田市民文化会館「パトリア日田」

〒877-0016 日田市三本松1-8-11

Tel. 0973-25-5000 川端都古

<https://www.patria-hita.jp/>

パトリアファミリー劇場 絵本 作家 谷口智則さんと一緒に遊 ぼう!

絵本『CACHE CACHE』をはじめ、フランスやイタリア、台湾、
中国など海外でも数々の絵本を
出版する絵本作家・谷口智則に
よるイベント。ライブペインティ
ングや絵本の読み聞かせ、アニ
メーション上映を行う。大きな
キャンパスに目の前で色彩豊か
で愛らしい動物たちが描かれて
いくライブペインティングなど、子

どもから大人まで楽しめる内容
となっている。

[日程] 9月12日

[会場] 日田市民文化会館「パトリア日田」

●宮城県宮崎市

宮城県立芸術劇場

〒880-8557 宮崎市船塚3-210

Tel. 0985-28-3208 高吉加奈美

<https://miyazaki-ac.jp/>

おんがくのおもちゃ箱シリーズ Part.14 クラシック編

0歳児から音楽に楽しくふれる
ことができる「おんがくのおも
ちゃ箱シリーズ」にクラシック編
が新登場。ピアニストの田村緑
が、お話やクイズ、手遊びなどを
交えながら、『動物の謝肉祭』な
ど親しみやすいクラシック曲を
お届けする。ゲストにアウトリー
チアーティストのソプラノ歌手・
田島千愛を迎え、童謡や音楽絵
本なども披露する。

[日程] 9月12日

[会場] メディキット県民文化セン
ター(宮城県立芸術劇場)

特集 アートプロジェクト

全国各地で開催されている多
彩なアートプロジェクトを紹介
します。

※開催地の北から順に掲載。

☎は会場、📍は問い合わせ先です。
(➡は地域創造助成事業)

●宮城県石巻市 夏期:8月11
日～9月26日/春期:2022年4
月23日～6月5日

Reborn-Art Festival 2021-22 テーマ:利他と流動性

石巻市とその周辺を含む広域で
展開する、コロナ禍を踏まえた
分散型芸術祭。音楽家の小林
武史を実行委員長として、現代
アートや音楽、食のイベントや

展示が催される。10年前の東日本大震災の時に人々の間で芽生えた助け合いの精神＝「利他的なセンス」をアートによって呼び起こし、地域の復興と循環型の社会づくりを目指す。

☑ 石巻市街地、牡鹿半島(桃浦・荻浜・小積・鮎川)、女川駅周辺
 ㊦ Reborn-Art Festival 事務局
 Tel. 0225-90-4726

● 仙台市 10月1日～3日

仙台クラシックフェスティバル2021

クラシック音楽の普及と聴衆の拡大を目的とした音楽フェスティバル。「せんくら」の愛称で市民に親しまれ、15回目を迎える今年、「さらに、みんなの、せんくらへ。」をキャッチコピーに4施設を会場に83公演を展開。多種多様な楽器による豊富なプログラムで、誰もが気軽にクラシックを楽しむことができる。

☑ 日立システムズホール仙台、仙台銀行ホール イズミティ21ほか
 ㊦ 仙台市市民文化事業団
 Tel. 022-727-1872



2019年の様子

● 福島県会津若松市

10月2日～11月3日

あいづまちなかアートプロジェクト2021

地域の歴史的建造物や蔵、公共施設を会場にして、会津の文化資源である漆をテーマとした「会津・漆の芸術祭」と、地域が誇るアーティストの優れた芸術作品などを展示する「まちなかピナコテカ」を融合した文化振興イベントとして2013年から開

催。特別企画として、アーティストと地元中学生による共同作品制作「ガラスアート」を展示予定。

☑ 会津若松市内各所
 ㊦ あいづまちなかアートプロジェクト実行委員会
 Tel. 0242-39-1305



高橋克幸絵画教室ART-LINK-SESSION (2020年活動風景)

● 群馬県中之条町

9月11日～10月11日

中之条ビエンナーレ2021

特色のある里山文化をもつ中之条町で開催される国際現代芸術祭。2007年の開催より、海外作家も含めた多くの参加作家と地域住民との交流が続けてきた。8回目を迎える今回は、創造的、革新的なアイデアやプロジェクトをもつ多分野のアーティスト125組(8月1日現在)によるアート展示、演劇、身体表現などのパフォーマンスが行われる。今年の特設サイトでのオンライン展示なども予定。

☑ 中之条町各所、オンライン
 ㊦ 中之条ビエンナーレ事務局
 Tel. 0279-75-3320



西島雄志《真神》 撮影：山重徹夫

● 石川県珠洲市

9月4日～10月24日

奥能登国際芸術祭2020+

能登半島の最先端、珠洲市全

域を会場に美術の最先端を発信するフェスティバル。昨年コロナ禍で延期され、1年越しの開催となる。今回は16の国と地域から53組のアーティストが参加。「珠洲の大蔵ざらえプロジェクト」として、珠洲中から収集された日用品や農具、キリコ灯籠などの“民具”をアートによって蘇らせる劇場型民俗博物館「スズ・シアター・ミュージアム」の公開も見どころ。

☑ 珠洲市全域
 ㊦ 奥能登国際芸術祭実行委員会
 Tel. 0768-82-7720



トビアス・レーベルガー[ドイツ]
 《Something Else is Possible/なにか他にできる》

● 長野県松本市

7月3日～2022年2月28日

松本まちなかアートプロジェクト2021

アートを通じたまちの活性化とクリエイティブ産業創出を目指し、市街地の店舗等の所蔵美術品を特別公開したり、店舗の建築物を見学地として回遊するなど、さまざまなイベントを展開。今年度大規模改修で休館中の松本市美術館がプロデュースする「パルコde美術館」は、ファッションビル・松本パルコのワンフロアを使い、草間彌生ら現代アーティスト12作家の作品を4つの期間に分けて紹介する。

☑ 松本パルコ6Fほか
 ㊦ 松本市美術館
 Tel. 0263-39-7400

● 長野県大町市 パフォーマンス会期：8月21日～10月3日、アート会期：10月2日～11月21日

北アルプス国際芸術祭2020-2021

芸術文化の創造性と地域資源を結びつけ、まちの潜在的な魅力を引き出す当芸術祭は、北アルプスを望む大町市の自然の豊かさを表す「水、木、土、空」をテーマとする。第2回となる今回は、11の国と地域から38組のアーティストを招聘し、パフォーマンスのみ鑑賞できる会期とアート作品をすべて鑑賞できる会期に分けて開催される。

☑ 大町市各所
 ㊦ 北アルプス国際芸術祭実行委員会事務局
 Tel. 0261-85-0133



目《信濃大町実景舎》
 Photo by Tsuyoshi Hongo

● 和歌山県九度山町

9月19日～10月17日

くどやま芸術祭2021

「町がまるごと美術館に」というキャッチコピーを掲げ2016年から開催している芸術祭。古い趣のある町屋が建ち並ぶまちなかの各所や、世界遺産や真田幸村ゆかりの史跡等の歴史遺産を巡りつつ、そこに展示される現代アートを鑑賞することで新たな文化の融合、アートへの理解を広げる。会期中にはまちなかでアーティストがライブペイントを行うイベントなども行う。

☑ 九度山町各所
 ㊦ くどやま芸術祭実行委員会
 Tel. 0736-54-2019

▼—今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp

●福島県新地町

新地町文化交流センター 「観海ホール」

〒979-2702 相馬郡新地町駅前1-3

Tel. 0244-32-1301

<https://www.shinchi-town.jp>

◎2020年8月1日オープン



東日本大震災による津波で甚大な被害を受けたJR新地駅周辺において、公共施設、商業施設、災害町営住宅等を整備した「観海タウン」の一施設としてオープン。295人の公募の中から選ばれた愛称「観海ホール」は、「海が見える」「広い視野」という意味があり、津波で流失してしまった福島県で最も古い共立学校「観海堂」の名前を残したいという願いから名付けられている。施設は音楽イベントや演劇公演など多彩なイベントに対応可能な445席の多目的ホールや、ドラムが完備されている音楽スタジオ、会議室で構成されており、入り口から入ってすぐのロビーは、窓を開けることで隣接している観海堂公園へと直接出入りができるイベントスペースとしても利用が可能。

駅周辺施設の最大の特徴として、同エリアに整備されたエネルギーセンターから温水、冷水、電気が直接供給されており、環境と経済と文化が調和した持続可能なまちづくりの拠点を目指していく。

[施設概要] 多目的ホール(445席)、音楽スタジオ(2室)、会議室、ラウンジ

[設置・管理・運営者] 新地町

[設計者] (株)佐藤総合計画

●岡山県高梁市

高梁市成羽複合施設 (たいこまるプラザ)

〒716-0111 高梁市成羽町下原606

Tel. 0866-21-1514

<https://www.city.takahashi.lg.jp/site/kyouikuinkai/nariwa-hukugo.html>

◎2020年8月31日オープン



地域局・公民館・図書館・観光案内所・バス停留所の機能を集約し、多目的多機能ホールを併せ持つ複合施設として開館。名誉市民である伊藤謙介氏(京セラ(株)元代表取締役会長)から「文化ホールを建設し地域に貢献したい」と寄付の申し出があり、公共施設の再編整備と併せて整備された。

江戸時代に築かれた成羽藩の陣屋跡地に立地し、愛称は大名が陣屋の南方にそびえる山の中腹から時を知らせる太鼓を鳴らしていたとされ、地域住民の間でこの地が「たいこまる」と呼び親しまれてきたことにちなんで名付けられた。

コンサートや大規模会議などに対応した「伊藤記念ホール」やセミナーや講座など多目的に利用可能な市民活動室など多彩な設備を備え、開放的な構造による一体的な活用、隣接する成羽美術館との連携、効率的な行政サービスの実現を目指す。

[施設概要] 地域局、公民館、観光案内所、公民館図書室、市民活動室3室、伊藤記念ホール(収容人員250人)、伊藤謙介顕彰室、会議室2室、シェアキッチン

[設置・管理・運営者] 高梁市

[設計者] (株)綜企画設計

●愛媛県八幡浜市

八幡浜市民文化活動センター・ 八幡浜市美術館

〒796-0066 八幡浜市62-1

Tel. 0894-21-3335

<http://www.city.yawatahama.ehime.jp/docs/2020051200028/>

◎2020年8月29日グランドオープン



老朽化などの理由で2017年に閉館した八幡浜市民会館が、約1年半の工事期間を経て「八幡浜市民文化活動センター」として新たに開館した。

間口11m×奥行8.5mのステージや、映画上映も可能な400インチのスクリーンを備えるホールが2・3階フロアを占め、1階フロアには音楽練習室やスタジオ、そして展示室3室から成る八幡浜市美術館が入る。

基本理念として、①市民の文化活動の支援・活性化、②憩いの場の提供、③歴史的な町並みや市民図書館など周辺施設と連携して中心市街地の賑わいを創出することを掲げている。すでにホール、美術館ともに、貸館事業だけでなく継続的な自主事業の取り組みをスタートさせており、市の文化拠点として今後の発展に期待がかかる。[オープニング事業] 宮本益光の「オペラの楽しみ」八幡浜スペシャル ほか

[施設概要] ホール(342席)、音楽練習室4、スタジオ(約70m²)、会議室3(計88.52m²)、和室(茶室)、展示室3(計約390m²)、収蔵庫(86.8m²)

[設置・管理・運営者] 八幡浜市

[設計者] 新企画設計(株)

▼—今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

滋賀県米原市

滋賀県立文化産業交流会館

長栄座伝承会 「むすひ」



長栄座伝承会「むすひ」公演の様子
写真提供：滋賀県立文化産業交流会館

●長栄座伝承会「むすひ」～東西を結び、刻を結び、乾坤を結ぶ～
[会期]2021年7月31日、8月1日
[会場]滋賀県立文化産業交流会館イベントホール内特設舞台「長栄座」
[構成・演出]中村豊

●長栄座
1883(明治16)年に長浜市に建てられ、1958(昭和33)年に全焼した芝居小屋。

●滋賀県立文化産業交流会館
1988年に湖北の文化と産業振興の拠点として開館。イベントホール(約2,000人収容)、小劇場(約200人収容)、練習室、会議室、オフィスを併設。イベントホールはこれまで産業展示、マーチングバンドの発表などの会場として活用されてきた。1992年3月まで滋賀県文化体育振興事業団、2017年3月まで滋賀県文化振興事業団が運営(2006年4月指定管理者移行)。17年4月からはびわ湖芸術文化財団(滋賀県の外郭団体等の見直しにより公益財団法人びわ湖ホールと公益財団滋賀県文化振興事業団の文化芸術部門を統合)がびわ湖ホールと滋賀県立文化産業交流会館の2館を運営。指定管理者移行を機に伝統芸能の普及・育成事業に力を入れる。

7月31日と8月1日、滋賀県米原市で「長栄座」の公演があった。長栄座は米原駅から徒歩7分の滋賀県立文化産業交流会館(以下、交流会館)に造られた特設舞台で、かつて長浜市に実在した芝居小屋の名だ。

10周年を迎える今回は、3部構成による公演「長栄座伝承会『むすひ』～東西を結び、刻を結び、乾坤を結ぶ～」に加え、1週間の夏のフェスティバルとして伝統工芸品の展示、伝統芸能ワークショップなども行われた。

イベントホールに建てられた仮設の芝居小屋の中に入ると、定式幕を引いた舞台、花道、左右に座布団の棧敷席もあり、往時の雰囲気再現されていた。1部は日替わりで能の舞囃子や新作地歌、箏を伴奏に踊るハワイアンフラ、落語まで並ぶバラエティに富んだプログラム。2部と3部は今年からスタートした新作の3年プロジェクトだ。

2部は「駅名連歌まいばらはつ」という新趣向で、米原が京都に向かう琵琶湖線、名古屋に向かう東海道本線、金沢に向かう北陸本線の駅であることから発想。今年は琵琶湖線の駅にちなんだ名所や名物を織り込んだ歌詞を、長栄座に当初から関わる箏曲家の野村祐子さんが作曲。巨大スクリーンに公募で選ばれた個性的な駅名の書と映像を映し、児童合唱団が歌い、古典芸能キッズワークショップの修了生が踊り、滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」が演奏する各駅停車の旅が展開した。

3部が能・箏曲・ダンスのコラボレーション「響鳴～日本三大弁財天と宇賀神将十五王子」。これは、竹生島、神奈川の江ノ島、広島島の厳島の三大弁財天をモチーフに3年で巡る作品。「其の一」の『相模江ノ島妙音弁財天と五王子』は箏曲家の萩岡松韻さんが作曲した。萩岡さんの演奏に、胡弓、シタール、タブラーが加わり、旅の僧を演じる能楽師の渡邊荀之助さん、弁財天に扮するダンサーが和合する力作を発表した。

交流会館が伝統芸能に力を入れるようになった背景には、県による外郭団体等の見直しがある。「このままでは生き残れない。危機感を抱い

た当時の職員が意見を出し合った結果が長栄座だった」と現・館長の竹村憲男さんは言う。

ハード面で恵まれない交流会館をどうアピールするか。長浜曳山祭、木之本町でつくられる箏や三味線の絹絃、信仰の島・竹生島、十一面観音を守り本尊としてきた村々、湖北にある文化資源を職員たちは数え上げた。「長栄座のようなシアター・イン・シアターをつくり、伝統芸能を柱に据えたのだから、その覚悟は相当のものだった」と竹村さん。

2011年に行われた初回の長栄座には人間国宝の常磐津一巴太夫が出演。4年目からは監修者として久保田敏子京都市立芸術大学名誉教授を迎えた。久保田さんは6歳から箏、地歌、長唄、義太夫と習ったが、名手の芸に接して研究者となり、その知識と人脈を長栄座に注いだ。「一般の人が伝統芸能を見に行く機会は少ない。低料金を質を落とさず、さまざまな伝統芸能にふれられる敷居の低い内容と演出を心がけた。伝統を守るだけが能じゃない。古典に根付いた創作もなければ」と新作も発表した。

長栄座とともに、交流会館は普及や育成にも乗り出す。「古典芸能キッズワークショップ」、「邦楽専門実演家養成事業」、その修了生が活動する「しゅはり」。この「しゅはり」の指導者が駅名連歌の野村さんだ。また、「箏曲ジュニア・アンサンブル」や、小中学校を対象にした演奏家派遣「和のじかん」もスタートした。

一方、久保田さんは新作を演出する人材を探し、金沢を拠点に能舞とクラシック音楽のコラボレーションなどを手掛けてきた中村豊さんに白羽の矢を立てる。「さまざまな要素の混ぜ合わせではなく、別々のものが存在して互いに引き立て、補い合う演出に徹した」という中村さんは、映像や駅名連歌の作詞も手掛ける才人だ。コロナ禍で3部の出演者18人が揃ったのは公演当日ながら、観客を感動させたのは伝統芸能のもつ力だろう。

長年、事業に携わってきた野村さんは、「10年かけて演奏者も客も育った」と笑う。長栄座は、公演のための舞台から、発信の場に飛躍しようとしている。(ジャーナリスト・奈良部和美)